

## 第6章 価値と労働 (岩波文庫P 54 ～ 62)

司会…この章からいよいよ『資本論』完成間近のマルクスは、その理論を十分に展開しています。レポートを担当してくれたのは香川県協の三木政孝さんです。よろしくお願いします。

商品の価値とは何か？ それは、  
どうして決定されるか？

『資本論』冒頭で、「資本主義的生産様式の支配的である社会の富は、『巨大な商品集積』として現れ、個々の商品はこの富の要素形態として現れる。したがって、われわれの研究は商

品の分析をもって始まる。」とあります。この章ではまさに、問題の真の展開にはいらねばならぬ点に達したとして、商品の価値とは何か？ それは、どうして決定されるか？ という説明に入ります。

まず、実際に一商品の価値・交換価値という場合には、その商品が他のすべての商品と交換される量的比率を意味すると理解します。そうすると、次に諸商品が相互に交換される比率はどのようにして規制されるかという疑問が出てきます。

例えば1クオーターの小麦がX量の

絹やY量の金やZ量の鉄と交換できるものとすると、1クオーターの小麦の価値は正確に同一であるので、その価値は、様々な品物とのそれぞれの交換の割合とは別の独立したあるものを基準に交換がなされるということになります。つまり共通の尺度である第三者の基準により交換が成立するということです。あらゆる直線系の形を持ったものを一定数の三角形に分解することで全体の面積が求められるように、諸商品の価値についても同じ尺度を含む比率として区別しなくてはならないということなのです。

## ◆特集 みんなの学習講座

### 商品価値の実態

(商品の背後に人間労働がある)

同じ尺度とは何か。まず全ての商品の共通な社会的実態は何であるか？ということです。商品を生産するために一定量の労働が用いられ、また費やされねばならない。つまりそれは労働(抽象的人間労働)であるということ。また、その労働は、単に労働ではなく「社会的労働」です。ある品物を自身の直接的使用のためにつくり、自身で消費することは、生産物をつくりますが商品とは言えません。それは単に私的労働です。一方、商品を生産するためには、人は何らかの社会的要求を充たす品物を生産しなくてはならないし、彼の労働そのものが社会によって支出される総労働量の一部分をなさねばなりません。社会内の分業に従属するということであり、つまり社会的に使用価値のあるものを社会的分業

のもとで生産すること。それが「社会的労働」です。

わたしたちが諸商品を価値として考察する場合には、結晶した・社会的労働という単一の観点のもので考察するということです。では、労働の分量はどうやって測定されるのでしょうか？それは、時、日などを尺度としての、労働の継続される平均的な時間によって、あらゆる種類の労働(単純労働や複雑労働)が、その単位として整約されます。

### 社会的労働の結晶

つまり、商品が価値をもつのは、それが社会的労働の結晶だからです。その価値の大きさ、またはその相対的価値(交換価値)は、それに含まれる社会的実体の分量の大小、すなわち、その生産に必要な労働の相対的分量に依存しています。そのため、諸商品の

相対的価値は、それらに費やされた・実現された・固定された・労働のそれぞれの分量によって決定されます。つまり、同一の労働時間内に生産される諸商品の相対的諸分量は相等しく、一商品の価値が他の一商品の価値に対する比は、一商品に固定された労働の分量が、他の一商品に固定された労働の分量にたいする比に等しいとなります。

### 労働に対する報酬と労働の

### 分量とは別のもの

労働に対する報酬と労働の分量とはまったく別のものです。例えば1クォーターの小麦と1オンスの金が同じ労働量が固定されており、交換される場合、金と穀物との相対的価値を決定するにあたって、農業労働者と鉱夫との賃金を問題にするかと言えはまったく問題としません。彼らの賃金は諸生産

最後に使用された労働の分量	+	商品の原料に費やされた労働の分量	+	用具・道具・機械並びに建物に用いられた労働の分量	=	一商品の交換価値
【現在の労働】		【過去の労働】		【過去の労働】		

物の価値によって制限されることはあっても、彼らの諸生産物の価値は賃金によつては制限されないのです。

### 生産手段の 価値の移転

一商品の交換価値を計算するときは、最後に使用された労働の分量に、①その商品の原料（流動資本）にあらかじめ費やされた労働の分量および、②「かかる労働の際に採用された」用具・道具・機械ならびに建物（固定資本）に用いられ

た労働を加えなければなりません。つまり、過去の労働による価値が移転され、生きた労働によつて新たにつくられた価値が加わつたものが現在の商品の価値となります。なお、原料のように一度に消耗されるものは、生産された諸生産物に一度に価値が移転されます。

一方紡錘などは一度では消耗されないため、それらのいわば平均的寿命、一定の期間の平均的損耗・摩損を基礎として平均計算（減価償却）されます。

### 社会的に平均化された労働

また、一商品の価値は、一定の社会的平均的な生産条件のもとで、使用される労働の与えられた社会的平均的な強度および平均的な熟練をもつて、その商品を生産するに必要な労働の分量を意味します。

### 商品交換するために共通する 第三者は何か

司会…では最初にレポーターからこの6章前半のポイントや、わかりづらかつたところなどがあればお願いします。三木…まず矩形などいろいろの言葉が出てきて、調べると難しかったと感じました。重点としては、商品の分析から始める必要があるということ、商品突き詰めて議論していけばいいのではと思います。

司会…商品の価値は何で決定されるかということが書かれていましたね。様々な商品を交換するにあたっては共通する第三者の何かがあるのだらうということですが、三角形の例を用いながらそれが労働だというレポートでしたが、質問はありませんか。  
NY…p 64・9行目「要点に触れることしかできない」とありますが、どういう意図でしょうか。

## ◆特集 みんなの学習講座

HS…この2年後に『資本論』が発刊されますが、この講演において、全てを説明するわけにはいかないで、その本質部分を要点のみ話すことになるという意図です。

### 商品の価値の決定

柳本…商品の価値とは何か？ それはどのようにして決定されるのか？ ということです。「1クオーターの小麦と様々なものと交換ができる。交換されるそれぞれは形も大きさも重さも違わがなぜ交換できるのか。何かが等しいから交換できる。そこに何か第三者の存在があるのではないか」と分析していくのです。

司会…価値は何を基に決まるのか。何かあるのではないかと突き詰めていったわけですね。

須藤…原始時代、物物交換であった時代にでも何かを基準として交換が行わ

れました。海で捕った魚と山で育てた野菜など、それぞれが何かを基準に納得して交換がされていきました。魚を釣るのに3日かかった。野菜を育てるのに半年かかった。など、比較するのは双方がそれを手に入れるのにどれだけ汗を流したかで判断しているわけです。本人たちはそれほど意識をしていなかったかもしれないが、偶然ではあるものの、何かを基準に判断がされて交換が成り立ってきたのです。

### 使用価値が違つものとの交換

KH…使用価値が違う商品同士を交換する時に、何をもって交換するための価値をそれぞれの商品から見出すのかということですね。

須藤…そのとおりです。同じ使用価値のある同じ商品では交換は生まれませぬね。

司会…そこで、交換されるために第三

者の何があるのか。それが人間労働であるということですね。

### 社会的労働って何ですか

NY…単に労働ではなく社会的労働であるということですが、どのように違うのでしょうか。

HS…単に労働という場合には、自身が消費する分だけをつくるということが含まれますが、社会的労働というのは、社会的に必要な商品を生産するために社会に組み込まれている。配分されている労働であるということだと思います。

司会…ものをつくるという行為が、自分だけでなく誰かとつながっているかどうかということですね。

須藤…単に労働というと、自給自足でつくったものを自身で消費するだけで商品とはならないが、社会的労働となれば、社会的に他の人が必要とする商

品を生産する。野菜をつくる人、魚を釣る人、米をつくる人など、社会全体で分業されている交換を前提とした労働ということです。

AD：先日三好市職労連青年部で学習会で、この部分を説明しました。

IU：ここでのいう社会的労働は、資本主義的労働と読み替えても良いのでしょうか。

KH：分業を前提とする労働ということですから、資本主義社会にも当然あります。社会主義でも分業は存在します。

須藤：まず、商品とは何かということですが、ある限られた歴史のなかにか存在しなかったものであり、社会的分業と私有財産制であるということですね。資本主義社会のなかでこれが生まれましたが、このうち、社会的分業については社会主義でも適用されます。

KH：社会主義になると商品は単に生産物となるので、あくまで歴史の一部

分でしか存在しないものになるわけですね。

### 労働の分量はどう計るか

司会：次に労働の分量はどうやって測られるのかということですが、時間、日など労働の継続される時間によってということになります。そして、商品が価値を持つのは、それが社会的労働の結晶だからということですね。そのため、諸商品の相対的価値は、それらに費やされた・実現された・固定された労働のそれぞれの分量によって決定されるとあります。また、労働に対する報酬と労働の分量とはまったく別のものである。彼らの賃金は諸生産物の価値によって制限されることはあっても、彼らの諸生産物の価値は賃金によって制限されないということですが、ここは理解できますか。

HS：ウェストンがずっと言ってきた

「賃金額によって商品の価格が決まる」ということをここでは明確に否定をしているということですね。

### 価値の移転

司会：では次の生産手段の価値の移転というところは理解できましたか。「一商品の交換価値を計算するときには、最後に使用された労働の分量に、その商品の原料にあらかじめ費やされた労働の分量、およびかかる労働の際に援用された用具・道具・機械並びに建物に用いられた労働を加えなければならぬ。」とありますね。

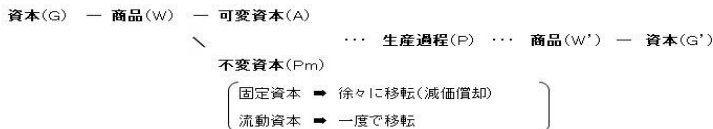
AD：最後に使用された労働とは何ですか。

TU：最後にその商品を仕上げた労働のことではないですか。

須藤：次ページの図で説明しますが、まず資本があつて、その資本で商品を買います。その商品は労働者の賃金部

## ◆特集 みんなの学習講座

### ●商品生産による価値の移転



分の可変資本と生産手段である不変資本に分かれます。生産手段のなかには機械や道具、工場などの固定資本と原料などの流動資本があります。この生産過程を通じて新たな価値が

ついた商品が生まれます。先ほどの最後に使用された労働がまさにこの生産に使われた労働ということになります。今回使われた原料や機械等の不変資本はこれより前の労働が作り出した

料などの流動資本があります。この生産過程を通じて新たな価値が

価値であるということです。この過去になされた労働の価値が、今回の生産過程で移転し、さらに新たな価値が加わって今回の商品がつけられるのです。ただし、この移転は流動資本の場合は一度で移転し、固定資本の場合は減価償却され、時間をかけて少しずつ移転していくこととなります。

### 社会的平均的な強度、

### 平均的な熟練

NY… p 61・11行目、「ひとが怠惰であるか不熟練であればあるほど、その商品の仕上げに多くの労働が必要だ」というわけで、彼の商品はますます価値が多いかと思われるかもしれない。だがそれは、とんでもない間違いである。「柳本…生産する際にその労働者が怠けたり、慣れていかなかったりすればつくのに時間がかかります。先ほど労働

の量によって価値の大きさが決まるとありましたが、長く労働すればするほど価値が高くなるのかということですが、そうなりませんね。肝心なのは価値を決めるのは「社会的労働」であるという点です。社会的というのは先ほども議論してきましたが、それぞれのものをつくるのにかかる平均的な労働時間のことです。早すぎることもなく遅すぎることもない平均的な労働時間によって決まるということです。

KH…1個のものをつくるのに平均的なスピードが1時間で、そのものが1千円の価値があるとしたときに、ある会社では同じものをつくるのに2時間かかったので2千円の価値があるとして売ろうとしても、平均である1千円でしか売れないということ。司会…わかりやすい説明ありがとうございます。ここでは6章前半はここで終わります。価値は何かという謎が段々解明されてきましたね。